霞ヶ浦会館受電設備改修工事

A-01	改修特記(R4_1章~3章)
A-02	改修特記(H31_4章~5章)
A-03	改修特記(R4_6章~8章)
A-04	改修特記(H31_個人情報取扱注意事項)
A-05	案内図
A-06	配置図
E-01	送電系統図

霞ヶ浦会館受電設備改修工事 工事特記仕様書		●振動、騒音、ほこりのでる作業やその他について、事前に施設管理者及び近隣施設等と調整を 行うこと。	□ □ 完成図	- 提出する ※提出しない [1.8.1~3] 種類 ※改修標仕 表1.8.1による
総則		17-2-。 ○ 音の発生する工事は昼間の作業とし、早朝、夕方以降は作業を行わないこと。また、低騒音の		・配置図及び案内図・各階平面図
】 エ 事 概 要 1. 工事場所 三重県四日市市大字羽津甲5162番地の1		建設重機を使用し周辺への影響に配慮すること。		· 各立面図 · 断面図
		・工事期間中は、近隣住民の安全確保に努めること。		・仕上表・施工図
2. 工事種目 霞ヶ浦会館受電設備改修工事		○同一敷地内での別途工事について、協議に応じること。		・施工計画書
		・2020/ / ~ / は工事を行わないこと。		※CADデータの提出 ※提出する ・提出しない
1. 共通仕様		・工事期間は、 / ~ / とする。尚、 / ~工事担当確認後事前使用を行うこととする。		・保全に関する資料 提出部数 ※1部・
(1)図面及び特記仕様に記載されてない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕	6 発生材の処理	・引渡しを要するもの () [1.3.12] () () () () () () () () () (0 = 2	= 1 27 A3 (1) = (1 N = 1 - 1 7 (1 N = 1
様書(令和4年版)」(以下「改修標仕」という。)による。ただし、改修標仕に記載されていない事項は、国		○特別管理産業廃棄物 ※無 ・有 () 処理方法 () の特定建設資材の搬出	❷ 記 録	工事記録については以下による。(A4版) ※工事着手前写真 1 部
土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(令和4年版)(以下「標仕」という。)による。		■ 再資源化等を行う (再資源化が困難な場合には縮減)		ベーチョー・ロート ロート ロー
2. 特記仕様		・ 特定建設資材以外の搬出 ・ 構外搬出適正処理		※竣工写真 ※内部、外部 2 部
2. 付品は18		※ 廃棄物管理票(マニフェスト)確認表を作成し、監督職員にA票及びD票もしくはE票		※工事の各記録写真については、デジタル画像にて整備編集を行うよう努めること。
(2)特記事項は、①印の付いたものを適用する。		の確認を受けるものとする。ただし、電子情報処理組織に登録(電子マニフェスト)に		※工事日報・納品伝票等の写しは、監督職員が提出を求めた場合は提出すること。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。		より確認を行う場合は、この限りではない。		
⊙印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。		※建設発生土 (50m3以上)を搬出する場合は、書面にて処分地の報告(位置図等)を行うこと。	【3 設備工事との取合し	ハ 施工範囲 ※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の補強
(3)特記事項に記載の[]内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。		また、処分地が民有地の場合、土地所有者からの建設発生土受入承諾書の写しを提出すること。		※図示した壁・天井の仕上材・下地材の切込み及び補強
(4)特記事項に記載の(標) 内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。	○ 大阪小人無理	☆漢廷道具 V·和果土 7 - 夕以 L (土利志の山 3 は 2 ギ) - ◆和果」 ◆ 1 - ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑	16 設計GL	 ※図示のベンチマーク (B.M) mm (現状地盤はB.M mm)
₩ / \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	⑦ 交通安全管理 ⑧ 建築材料等	交通誘導員 ※配置する 名以上 (大型車の出入は必ず) ●配置しない [1.3.9] ※本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又は同等のものとする。	IV EXELUE	
部分完成	少 建来刊行号	ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。	17 完成引渡し後の点札	┃ 食 かし期間は、別に定めた特約(責任施工による保証期間など)を除き、四日市市工事請負契約
		・品質及び性能を試験により証明を求める材料は以下の物とする。 [1.4.5]		書に準拠する。
1)保険及び保証 ①建設工事保険 (保険証の写しを提出)		(・工事完成引渡し後、必要に応じて一年又は二年を超えない範囲の適当な時期に、双方
●請負業者賠償責任保険 (保険証の写しを提出)	③ 化学物質を発散する	本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するも		立ち会いで工事目的物のかし点検を実施する。
(●管理財物担保特約に加入のこと)	建築材料等	のとし、次の 1) から 5) を満たすものとする。	18 随時検査	予定価格(税込)3000万円以上の工事は、四日市市検査規程第8条第6項の規定により、
・任意にて加入		1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、パーティクル		発注者が随時検査を求めた場合、監督職員の指示に従い受検すること
2) 建 設 共 済 等 下記の制度について加入すること。		ボード、MDF、その他木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗料は、ホルムアル	19 施工体制台帳の提出	出 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めにより、施工体制台帳の写しを
○法定外労災補償制度 (加入証明書の写しを提出)		デヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散	○ 足場その他	提出すること。なお、警備事業者についても記載すべき下請負の範囲に含むものとする。 内部足場 種別 ※きゃたつ、足場板等・ [2.2.1]
● 回転 受建設業退職金共済制度 当初の請負金額が500万円以上の場合は、掛金収納書を提出する こと。また、増額の契約変更があった場合についても、その分を		が極めて少ないものとする。	2 章	外部足場 種別 ※くさび緊結式 (手すり先行工法) • [2.2.1]
提出すること。 共済証紙購入額 請負金額の 1/1000以上		3) 接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しな	부	防護シートによる養生 ・行わない ◎行う
なお、他の退職金制度に加入している等、共済証紙を購入する必要がない場合は、理由書の		い難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン	仮	騒音・粉じん等の対策 ・行わない ⊙行う (・防音パネル ・防音シート) [2.1.3]
提出をもって共済証紙の購入を不要とする		キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。	設	材料、撤去材等の運搬 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・E種 [2.2.1][表2.2.1]
・任意にて加入		4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、	2 養生その他 エ	既存部分の養生 ※ビニルシート、合板等・ [2.3.1]
※資材の購入及び下請け業者の選定に際しての留意事項		発散が極めて少ないものとする。	事	固定家具等の移動 ※行わない・行う(図示)
次十の唯 3 取がてすの かとてはは坐本にてせてとて担人 巻本の際中に吹しては		こ シャパ いっきなせいかん 大田 レマルミキキ 中日 事初 中野 ハ スのルのノ田佐		
資材の購入及び工事の一部を下請け業者にて施工する場合、業者の選定に際しては、		5) 1)及び4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等	·	()====================================
出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。	事 3 仮設間仕切り	(a)設置箇所 ※図示・ [2.3.2][表2.3.1]
			·	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装
出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。	·	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装
出来る限り市内業者を優先させること。 章 項 目 特 記 事項 ①適用基準等 ②建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) 1 ※工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外	·	種別 下地 仕上材(厚さmm) 充てん材 塗装 ・A種 ※軽量鉄骨 ・合板(※9.0 ・) ※無し
出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品	·	種別 下地 仕上材(厚さ mm) 充てん材 塗装 ・A種 ※軽量鉄骨 ・合板(※9.0 ・) ※無し ・B種 ・木下地 ※せっこうボード(※9.5 ・) 厚さ mm ・片面 ・C種 単管下地 防炎シート ※無し 仮設扉 ※木製扉 ・合板張り程度 ※無し
出来る限り市内業者を優先させること。 章 項 目 特 記 事 項 ① 適用基準等 ② 建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ※ 本事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版) ※ 請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4]		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用	·	種別 下地 仕上材(厚さ mm) 充てん材 塗装 ・A種 ※軽量鉄骨 ・合板(※9.0 ・) ※無し ・B種 ・木下地 ※せっこうボード(※9.5 ・) 厚さ mm ・片面 ・C種 単管下地 防炎シート
出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用	3 仮設間仕切り	種別 下地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗装 ・ A種 ※軽量鉄骨 ・合板 (※9.0 ・) ※無し ・B種 ・木下地 ※せっこうボード (※9.5 ・) 厚さ mm ・片面 ・C種 単管下地 防炎シート ※無し 仮設扉 ※木製扉 ・合板張り程度 ※無し ・銅製扉 ・片面フラシュ程度 ・有り
出来る限り市内業者を優先させること。 章 項 目 特 記 事 項 ① 適用基準等 ②建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ②工事実績情報の登録 ②工事実績情報の登録 ※請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4] ※建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事 ※風速 (Vo)=34 m毎秒		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 機格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用	·	種別 下地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗装 ・A種 ※軽量鉄骨 ・合板 (※9.0 ・) ※無し ・B種 ・木下地 ※せっこうボード (※9.5 ・) 厚さ mm ・片面 ・C種 単管下地 防炎シート ※無し ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用	3 仮設間仕切り	種別 下地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗装 ・ A種 ※軽量鉄骨 ・合板 (※9.0 ・) ※無し ・B種 ・木下地 ※せっこうボード (※9.5 ・) 厚さ mm ・片面 ・C種 単管下地 防炎シート ※無し 仮設扉 ※木製扉 ・合板張り程度 ※無し ・銅製扉 ・片面フラシュ程度 ・有り
出来る限り市内業者を優先させること。 章 項 目 特 記 事 項 ② 適用基準等 ② 建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ② 工事実績情報の登録 ② 工事実績情報の登録 ※請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4] ※建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事 ※風速 (Vo) = 34 m毎秒 地表面粗度 ※Ⅲ(Zb=5 Zg=450 α=0.20) ・Ⅱ(Zb=5 Zg=350 α=0.15)		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 機格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用	3 仮設間仕切り 4 監督職員事務所	種別 下地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗装 ・A種 ※軽量鉄骨 ・合板 (※9.0 ・) ※無し ・B種 ・木下地 ※せっこうボード (※9.5 ・) 厚さ mm ・片面 ・C種 単管下地 防炎シート ※無し ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
出来る限り市内業者を優先させること。 章 項 目 特 記 事 項 ①適用基準等 ②連築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) (※②工事実績情報の登録 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版) (※②工事実績情報の登録 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版) (※) (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) (※) (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版) (※) (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版) (※) (国土交通省大臣房官庁営繕部監修 令和 5 年版) (※) (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版) (※) (国土交通省大臣官房官庁営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 機格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用	 3 仮設間仕切り 4 監督職員事務所 ⑤ 工事用水 ⑥ 工事用電力 1 既存下地の補修及び 	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充 てん材 塗 装 ・ A種 ※軽量鉄骨 ・ 合板 (※9.0 ・) ※無し ・ B種 ・ 木下地 ※せっこうボード (※9.5 ・) 厚さ mm ・ 片面 ・ C種 単管下地 防炎シート 仮設扉 ※木製扉 ・ 合板張り程度 ・ 銅製扉 ・ 片面フラシュ程度 ・ 設ける 規模等は以下による ・ 既存施設の一部を使用する ※設けない (・規模 ㎡程度 ・ 仕上げ;床 、壁 、 天井 程度) 横内既存の施設 ※利用できる (・有償 ○無償) ・ 利用できない 横内既存の施設 ※利用できる (・有償 ○無償) ・ 利用できない
世来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 機格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 機格品	3 仮設間仕切り 4 監督職員事務所 (⑤ エ事用水 (⑥ エ事用電力 1 既存下地の補修及び 処置	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※ ※軽量鉄骨 ・合板 (※9.0 ・)
世来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ A 項格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品	3 仮設間仕切り 4 監督職員事務所 3 工事用水 6 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 機格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の7第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E の規格品	3 仮設間仕切り 4 監督職員事務所 5 工事用水 6 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※ ※軽量鉄骨 ・合板 (※9.0 ・)
出来る限り市内業者を優先させること。	10 特別な材料の工法	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ A 項格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品	3 仮設間仕切り 4 監督職員事務所 ⑤ エ事用水 ⑥ エ事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水 防 水	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
世来る限り市内業者を優先させること。 章 項 目 特 記 事 項 ②適用基準等 ②連集工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ③工事実績情報の登録 ③ 品質計画 共 通 事項 ③ 電気保安技術者 ② 電気保安技術者 ・適用する。 ②適用しない。 [1.3.3] 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気主任技術者の資格を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。	10 特別な材料の工法 11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E の規格品 ④旧 J A S の F c c が規格品	3 仮設間仕切り 4 監督職員事務所 5 工事用水 6 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
世来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆ ☆ 規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着削使用 b. 接着削等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない塗料時用 f. 非ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E の規格品 ④旧 J A S の F co規格品 ②修標仕、標仕に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。	4 監督職員事務所 4 監督職員事務所 ⑤ 工事用水 ⑥ 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水 0	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充 てん材 塗 装
世来る限り市内業者を優先させること。	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆ 兌格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d.ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料時用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 兌格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E o 規格品 ④旧 J A S の F c c 元の規格品 ④旧 J A S の F c 元の規格品 ②は祭基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E o 規格品 ④旧 J A S の F c 元の規格品 ④ は	3 仮設間仕切り 4 監督職員事務所 ⑤ 工事用水 ⑥ 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水 改修	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm)
世来る限り市内業者を優先させること。 章 項 目 特 記 事 項 ①適用基準等 ②建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ②工事実績情報の登録 ③ 品質計画 ※請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4] ※建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事 ※風速 (Vo)=34 m毎秒 地表面租度 ※Ⅲ (Zb=5 Zg=450 α=0.20) ・Ⅱ (Zb=5 Zg=350 α=0.15) 積雪区分 ※30 cm ・40 cm ・適用する。 ②適用しない。 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ・設場工事は月〜金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ・ ③施工事間は原則8:30~17:00とすること。清掃片付け等は18:00までとすること。 ・ ②施工作際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着削使用 b. 接着削等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆母機格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEo規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 ②財務に ・適用しない ・	4 監督職員事務所 4 監督職員事務所 ⑤ 工事用水 ⑥ 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水 0	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充 てん材 塗 装 ※軽量鉄骨 ・合板 (※9.0 ・) ※無し
世来る限り市内業者を優先させること。 章 項 目 特 記 事 項 ②適用基準等 ②連築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ③工事実績情報の登録 ③ 品質計画 ※請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4] ※建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事 ※別速 (Vo) = 34 m毎秒 地表面租度 ※Ⅲ (Zb=5 Zg=450 α=0.20) ・Ⅱ (Zb=5 Zg=350 α=0.15) 積雪区分 ※30 cm ・40 cm ・適用する。 ②適用しない。 [1.3.3] 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ・股電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ・収電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ・収場工事は月~金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ・収場工事は月~金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ・②施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。清掃片付け等は18:00までとすること。 ・②施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。清掃片付け等は18:00までとすること。 ・②加工作業時間は原則8:30~17:00とすること。手続きに係る手数料は受注者の負担とする。	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a 非ホルムアルデヒド系接着削使用 b. 接着削等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E o 規格品 ④旧 J A S の F c c が ない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用する ・適用しない ・鉄筋施工 ・ 型枠施工 ・ 鉄工 ・ 塗装 ・ 左官 ※防水施工 ・ 建築大工 ・ サッシ施工 ・ 内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルペンゼン、パラジクロロペンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。	4 監督職員事務所 4 監督職員事務所 ⑤ 工事用水 ⑥ 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水 0	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm)
世来る限り市内業者を優先させること。 章 項 目 特 記 事 項 ②適用基準等 ②注葉工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ②工事実績情報の登録 ②工事実績情報の登録 ③ 品質計画 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版) ②工事実績情報の登録 ※請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4] ※建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事 ※風速 (Vo) = 34 m毎秒 地表面相度 ※Ⅲ(Zb=5 Zg=450 α=0.20) ・Ⅱ(Zb=5 Zg=350 α=0.15) 積雪区分 ※30 cm ・40 cm ・適用する。 ②適用しない。 [1.3.3] 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 ・般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ・規場工事は月〜金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ・現場工事は月〜金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ○施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。清陽片付け等は18:00までとすること。 ○施工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ○加工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ○加工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ○加工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆ ☆ ☆ ☆ 規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a 非ホルムアルデヒド系接着削使用 b. 接着削等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない塗料時用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆ ☆ ☆ ☆ 規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E o d k a との様に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用する ・適用しない ・ 鉄筋施工 ・ 型枠施工 ・ 鉄工 ・ 塗装 ・ 左官 ※防水施工 ・ 建築大工 ・ サッシ施工 ・ 内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルペンゼン、パラジクロロペンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。 測定は、パッシブ型採集機器により行う。	4 監督職員事務所 4 監督職員事務所 ⑤ 工事用水 ⑥ 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水 0	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm)
世来る限り市内業者を優先させること。 章 項 目 特 記 事 項 ②適用基準等 ②連築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ③工事実績情報の登録 ③ 品質計画 ※請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4] ※建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事 ※別速 (Vo) = 34 m毎秒 地表面租度 ※Ⅲ (Zb=5 Zg=450 α=0.20) ・Ⅱ (Zb=5 Zg=350 α=0.15) 積雪区分 ※30 cm ・40 cm ・適用する。 ②適用しない。 [1.3.3] 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ・股電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ・収電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ・収場工事は月~金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ・収場工事は月~金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ・②施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。清掃片付け等は18:00までとすること。 ・②施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。清掃片付け等は18:00までとすること。 ・②加工作業時間は原則8:30~17:00とすること。手続きに係る手数料は受注者の負担とする。	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a 非ホルムアルデヒド系接着削使用 b. 接着削等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着削及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E o 規格品 ④旧 J A S の F c c が ない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用する ・適用しない ・鉄筋施工 ・ 型枠施工 ・ 鉄工 ・ 塗装 ・ 左官 ※防水施工 ・ 建築大工 ・ サッシ施工 ・ 内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルペンゼン、パラジクロロペンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。	4 監督職員事務所 4 監督職員事務所 ⑤ 工事用水 ⑥ 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水 0	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm)
世来る限り市内業者を優先させること。	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 c.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d.ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料時使用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEo規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 ④部JASのFco規格品 ④部JASのFco規格品 ②対策基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③活力 ISのEの規格品 ・適用しない ・鉄筋施工 ・塑料施工 ・鉄工 ・塗装 ・ を官 ※防水施工 ・建築大工 ・サッシ施工 ・内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルベンゼン、パラジクロロベンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。測定は、パッシブ型採集機器により行う。着工前測定 ・行う ・行わない	4 監督職員事務所 4 監督職員事務所 ⑤ 工事用水 ⑥ 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水 0	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm)
世 項 目 特 記 事 項 ②連築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ②工事実績情報の登録 ②工事実績情報の登録 ③ 品質計画 ②工事実績情報の登録 ③ 品質計画 ② 電気保安技術者 ② 電気保安技術者 ② 電気保安技術者 ② 電気保安技術者 ② 電気保安技術者 ② 工事用車面の駐車場及び資機材置場 ※敷地内 ・工事者事前に周辺住民への工事説明会が開催される場合は資料作成等に協力すること。 ・現場工事は月~金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ・ 近田・ない。 ・ 現場工事は月~金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ・ 近田・ない。 ・ 近田・ない。 ・ 近田・ない。 ・ 正子・大郎・大郎・大郎・大郎・大郎・大郎・大郎・大郎・大郎・大郎・大郎・大郎・大郎・	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 c.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d.ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEo規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 ④修様仕、標性に配載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用する ・適用しない ・鉄筋施工 ・型枠施工 ・鉄工 ・塗装 ・左官 ※防水施工 ・建築大工 ・サッシ施工 ・内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルベンゼン、パラジクロロベンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。 測定は、パッシブ型採集機器により行う。 着工前測定 ・行う ・行わない 測定対象室 ・図示 ・ 測定箇所数 ・図示 ・ 課取方法 ・文部科学省の定めるところによる。・	4 監督職員事務所 4 監督職員事務所 ⑤ 工事用水 ⑥ 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水 0	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※軽量鉄骨 ・合板 (※9.0 ・)
世来る限り市内業者を優先させること。 1 1 1 1 1 1 1 1 1	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 c.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d.ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEo規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 ③BHJISのEo規格品 ③防施工 ・塑料品 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	4 監督職員事務所 4 監督職員事務所 ⑤ 工事用水 ⑥ 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水 0	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm)
世来る限り市内業者を優先させること。 1	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆ ☆ ☆ 共 4 項による国土交通大臣認定品 ②下記表示のある J A S 規格品 ②建築基準法施行令第20条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 ③非ホルムアルデヒド系接着剤使用 ○・非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d・ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 ・非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆ ☆ ☆ 規格品 ②建築基準法施行令第20条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E の規格品 ④旧 J A S の F c の 規格品 ④旧 J A S の F c の 提供していない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用する ・適用しない (1.6.2) ・ 鉄筋施工 ・型枠施工 ・鉄工 ・塗装 ・左官 ※防水施工 ・型枠施工 ・サッシ施工 ・内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルベンゼン、パラジクロベンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。測定は、パッシブ型採集機器により行う。 第工前測定 ・行う ・行わない 測定対象室 ・図示 ・ 測定箇所数 ・図示 ・ 採取方法 ・文部科学省の定めるところによる。 報告書の様式 濃度測定記録表の記載事項は、次のとおり 1. 工事名 2. 測定年月日 3. 天候 4. 測定前の換気及び閉鎖時間	4 監督職員事務所 4 監督職員事務所 ⑤ 工事用水 ⑥ 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水 0	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※経量鉄骨 ・合板 (※9.0 ・) ※無し ・ ・ ト ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
世来る限り市内業者を優先させること。	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 d.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEo規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 ④脂片の表別での規格品 ③が療性、標性に配載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用する ・適用しない ・鉄筋施工 ・建築大工 ・サッシ施工 ・内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルベンゼン、パラジクロロベンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。測定は、パッシブ型採集機器により行う。 着工前測定 ・行う ・行わない 測定対象室 ・図示 ・別定箇所数 ・図示 ・実験方法 ・文部科学省の定めるところによる。 ・ 報告書の様式 濃度測定記録表の記載事項は、次のとおり 1. 工事名 2. 測定毎月 3. 天候 4. 測定前の換気及び閉鎖時間 5. 測定時間 6. 室名と測定時間 7. 測定器具	4 監督職員事務所 4 監督職員事務所 ⑤ 工事用水 ⑥ 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水 0	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装
□ 日 特 記 事 項 ② 適用基準等 ③ 適用基準等 ② 近季工事構準詳細図 ② 工事実績情報の登録 表	11 技能士 12 化学物質の濃度測定	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 c.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d.ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEの規格品 ④旧JASのFの規格品 ④相JASのFの規格品 ④相JASのFの規格品 ● 適用しない ・鉄筋施工 ・ 型枠施工 ・ 鈴工 ・ 塗装 ・ 左官 ※防水施工 ・ 直接大工 ・ サッシ施工 ・ 内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルベンゼン、パラジクロベンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。 測定は、パッシブ型採集機器により行う。着工前測定 ・ 行う ・ 行わない 測定対象室 ・ 図示 ・ ア部対学省の定めるところによる。 報告書の様式 濃度測定配録表の記載事項は、次のとおり 1. 工事名 2. 測定年月日 3. 天候 4. 測定前の換気及び閉鎖時間 5. 測定時間 6. 室名と測定時間 7. 測定器具 8. 化学物質採取方法 9. 分析装置	4 監督職員事務所 4 監督職員事務所 ⑤ 工事用水 ⑥ 工事用電力 1 既存下地の補修及び 処置 2 アスファルト防水 0	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※経量鉄骨 ・合板 (※9.0 ・) ※無し ・ ・ ト ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
世来る限り市内業者を優先させること。 章 項 目 特 記 事 項 ②建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営績部監修 令和 4 年版) ②工事実績情報の登録 役 工事実続情報の登録	11 技能士 12 化学物質の濃度測定 12 化学物質の濃度測定 ※暴力団等不当介入に 1. 契約の経験	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 。非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 c.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d.ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 年.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEの規格品 ④旧JASのFの規格品 ②修構性、標性に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用する 適用しない ・鉄筋施工 ・ 登集 ・ 左官 ※防水施工 ・ 建築大工 ・ サッシ施工 ・ 内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルベンゼン、パラジクロロベンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。測定は、バッシブ型採集機器により行う。着工前測定 ・行う ・行わない 測定対象室 ・ 図示 ・ 別定箇所数 ・ 図示 ・ 親定箇所数 ・ 図示 ・ 課取方法 ・ 文部科学省の定めるところによる。 報告書の様式 濃度測定記録表の記載事項は、次のとおり 1. 工事名 2. 測定年月日 3. 天候 4. 測定前の換気及び閉鎖時間 5. 測定時間 6. 室名と測定時間 7. 測定器具	3 仮設間仕切り 4 監督職員事務所 ③ エ事用電 ⑤ エ専用電力 1 既存置 2 アスファルト防水 0 である。 2 アスファルト防水 1 では、	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充て 心材 塗 装
世来る限り市内業者を優先させること。	11 技能士 11 技能士 12 化学物質の濃度測定 12 化学物質の濃度測定 1. 契約の解除 四日市市の第4 とな 第3条又の解除 1. 対象の解除	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆ ☆ ☆ 規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③ 下配表示のある J A S 規格品 。非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d、ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第二種 ① J I S 及び J A S の F ☆ ☆ ☆ ☆ 規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E o 規格品 ②連築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E o 規格品 ② 連築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E o 規格品 ② 連接基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③旧 J S の E o 規格品 ② 連接基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③ 旧 J I S の E o 規格品 ② 連接基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③ 1 I S の E o 規格品 ② 1 I S の E o 規格品 ② 1 I S の E o 規格品 ② 2 連接基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③ 1 I J S の E o 規格品 ② 2 連接基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③ 1 I S の E o 規格品 ② 2 I S の E o 対象を担じたる。	3 仮設間仕切り 4 監督職員事務所 ③ 工事用水 ⑤ 工事用電力 1 既存置 2 アスファルト防水 砂・工事 防水改修工事 きの義者に、速やかに豊繁をへ通報並行に カイ入を受けたことにより、業務通行に	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装
世来る限り市内業者を優先させること。 1 1 1 2 3 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5	11 技能士 11 技能士 12 化学物質の濃度測定 12 化学物質の濃度測定 12 化学物質の濃度測定 1. 契約の解除 2. 四日市の締結 第3条又は第48	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆ ☆ ☆ 規格品 ② 建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③ 下配表示のある J A S 規格品 a 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第 5 手種 ① J I S 及び J A S の F ☆ ☆ ☆ ☆ 規格品 ② 建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③ II J I S の E の規格品 ② 連築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③ II J I S の E の規格品 ② 地類基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③ II J I S の E の規格品 ② 地類基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③ II J S の E の規格品 ② 地質・基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ⑤ II J S の E の規格	3 仮設間仕切り 4 監督職員事務所 ⑤ 工事用水 ⑥ 工事用電力 1 既配置 2 アスファルト防水 0 で スファルト防水 0 で ススファルト防水 0 で ススファルト防水	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充て 心材 塗 装

1	調査範囲 ・既存モルタ	-				[1.5.2]	⑥既存塗膜等の除去:	I		[4. 6. 3] [表4. 6. 2~5]	6 鋼製建具	簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない
I '	調査内容 ひび割れ(0			、ひび割れ部	の挙動の有無、	/ [び下地処理	工 法	処 理 範 囲	下地面の補修	7 鋼製軽量建具	品質規格 ※改修標仕表5.5.1による [5.5.2]
	漏水の有無刀	び錆汁の流出の有無	無を調査する。			/		サンダー工法	※既存仕上面全体 ·	・ひび割れ部改修工法		・製造所標準仕様による
	モルタルの	き部分を表示する。	また、モルタル	の欠損部の刑	彡状寸法等を調査	査 考 る。		・高圧水洗工法	※既存仕上面全体 ·	・浮き部改修工法		簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない
	コンクリー	表面のはがれ及びは	はく落部を調査す	る。	,	/		・塗膜はく離剤工法	※既存仕上面全体 ·	・欠損部改修工法		
	調査報告書の部数	《1部			/	′		○水洗い工法	※上記処理範囲以外の既存		8 ステンレス製建具	表面仕上げ ※HL仕上げ ・鏡面仕上げ [5.6.2]
2)改修工法の種類					[/ 1	1.4~5]		下地調整材	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	[4. 2. 2] [4. 6. 3]		曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ
/ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	外壁の種類 種	*石 - 25 / 26			J. 1.	1.4 - 0]			ポリマーセメントモルタル	/		簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない
·							7 //			, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		同勿れ出主に
			入工法・Uカット	トシール材充	<u> 填工法 /シール:</u>	工法	7 仕上塗材仕上げ	種類、仕上げの形状、エ		[4.1.4][4.2.2][表4.2.4~5]	0 34 B D A 44	
- - - - - - - - - - -	打放し仕上げ ・欠	員部 ・充填工	法 •					種 類	呼び名	仕上の形状	9 建具用金物	マスターキー・製作する・製作しない(既存マスターキーに合わせる)
	・モルタル塗り <u>・ひ</u>	び割れ部 ・樹脂注	入工法・Uカット	トシール材充:	填工(法・シール:	工法		・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材 E	・砂屋状 ・着色骨材砂壁状		モノロック ゴール() 美和ロック()
	仕上げ ・欠	員部 ・充填工	法 ・モルタル	レ塗替工法					・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状・		シリンダー箱錠 ゴール() 美和ロック()
	· 浮	き部 ・アンカ	ーピンニング部タ	分エポキシ樹	指注入工法 指注入工法				·防水形外装薄塗材 E	・ゆず肌状 ・凹凸状		シリンダー本締り錠 ゴール() 美和ロック()
		.		/	•			・ 複層仕上塗材	・複層塗材CE	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状		ドアクローザー ダイハツディーゼル機器(大島機工、ニッカナ)
-	○タイル張り仕 ○ひ	び割れ部 ・樹脂注	入工法 ・U ナ	カットシール	材充填工法				・可とう形複層塗材CE	上塗材 ・水系アクリル		日本ドアチェック製造、美和ロック、リョービ
			部分張替え工法						·複層塗材E	・水系アクリルシリコン		フロアヒンジ 大島機工(ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造、リ
			<u> </u>						・複層塗材RE	外観 ※つやあり ・つやなし		ヒンジクローザー 大島機工(ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造
	 -									・メタリック		/
	<u>O</u> ≡		び割れ部改修工法	_	調整目地改修工	上法			・防水形複層塗材 C E			リョービ、デンセイオートテック
	U	寸け仕上塗材塗り	_	: 才 形改修用f:	土上塗材塗り				・防水形複層塗材E	防水形の増塗材・行う		押板、取手 樹建工業、ユニオン
		寸け仕上塗材塗り	• /	2塗料塗り				・可とう形改修用	・可とが形改修塗材E	菊水化学工業(株) 下塗り材「ソフトリカパリー」+上塗り材「ビュートップシリコン」		
	• 複	層仕上塗材塗り	· 🎷	くチック塗材塗	金り ニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			仕上塗材		エスケー化研(株) 下塗り材「水性ワントサーフ」+上塗り材「水性コンボシリコン」	10 自動ドア開閉装置	開閉方法 ※引き戸・多機能トイレ用引き戸 / [5.8.2~3][表5.
			/							スズカファイン(株)		センサーの種類 ・光線センサー ・熱線センサー ・
ひび割れ部改修工法	・樹脂注入工法 (・モ	レタル面 ・躯体	コンクリート面)	[4. 1. 4] [4	[4.3.4]				下塗り材「リメーウプラ」+上塗り材「水性シリコンユニ」 上記同等品とする		
	注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm	i) 注入量(cc					1	※擦T注けローラー塗りとする	11 自閉式上吊り	品質規格 ※改修標仕5.9.3による [5.9.3][4
'	※自動式低圧エポキシ		/	*		— I		1 /		※塗工程及び塗布量はメーカー仕様による 尚、下塗り材の塗布量は薄塗を適用する	引戸装置	・製造所標準仕様による
	※自動式低圧エバイク 樹脂注入工法	1.0不凋	1.7	1.		— I	8 設計数量		1		り尸装直	衣足川ホームがしかり
- -		0.2010.2+**	X:50100	3% AO		— I	O 設計数重	bl 84 ±π /z	揺 粨 ー ・	数□ 世 **	② 重量シャッター	種類 ・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター [5.10.2][表
	・手動式エポキシ樹脂		1/	※40 ·	_	— I		外壁部板	種類 工法	数量備考		○屋内用防火シャッター ・屋内用防煙シャッター
	注入工法	0.3以上~0.5未満	/ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	×70 ·		—— I		・コンクリート打放し面	・ひび割れ ※ U カットシール			開閉機能 ⊗上部電動式(手動併用) ・上部手動式 [
	・機械式エポキシ樹脂	0.5以上~1.0未満	<u></u>	¥130 ⋅		l		1 /	<u> </u>	m		· /
Į,	注入工法		<u> </u>	1 ·		I		1 /	・欠損部 ※エポキシ樹脂モ			スラット 材質 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・溶融亜鉛めっき鋼板 [
	注入材料	/			[4	[4. 2. 2]				箇所		形状 ※インターロッキングが ・オーバーラッピング形 [
	※建築補修用注入	ポキシ樹脂(🛭 IS A	6024低粘度形又	は中粘度形)				・モルタル塗り仕上げ面	・ひび割れ ※ U カットシール	材充填工法 m		シャッターケース(防火・防煙以外の) ・設ける О設けない
	検査 (コア抜取り)	・行わなど						′	・自動式低圧エポキ	·樹脂注入工法 m		危害防止機構 · 障害物感知装置 (自動閉鎖型)
		※行う (抜取り部	の補修方法:)			・欠損部 ※充填工法			・「防火区画」を用いる防火設備等の構造方法を定める件」に適合する
	・Uカットシール材充均	/		ſ.	4. 1. 4] [4. 2. 2] [4	[4, 3, 5]				m		耐風圧性能 () N/m (一般重量・外壁用防火のもの)
	充填材料 ※1成分形をは2成分形ポリウレタン系シーリング材 ・可とうなエポキシ樹脂								・浮き部 ※アンカーピンニ			
									1.7		13 軽量シャッター	開閉形式 ※手動式 · 上部電動式(手動併用) [5.11.2][表5
									樹脂注入工法	m [*]	10 柱里ンドラグ	/
	ポリマーセメント	ルタルの充填	※行う ・行						· ·			1
	・シールエ法 /			[-	4. 1. 4] [4. 2. 2] [4	[4. 3. 6]		※上記数量については	は、現場調査を行い報告書を作り	戊し、提出する。		形状・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 [!
	シール材料・パラ	状エポキシ樹脂	・可とう性エポ	(キシ樹脂			X	尚、数量の10%を越	はえる増減が生じた場合は協議(D上、契約変更を行う事ができる。		耐風圧性能(/)N/m ²
↓ 欠損部改修工法 ·	※充填工法			[-	4. 1. 4] [4. 2. 2] [4	[4. 3. 7]	/					
	充填材料 ・ポリマ	ーセメントモルタル	レ(・モルタル面	・コンクリ	Jート面 ・C B	В面) 🖊	′				14 その他のシャッター	- ・オーバーヘッド / ドア
	/エポコ	シ樹脂モルタル()		1 改修工法	・かぶせエ法 ・撤去	よ工法(・引き抜き工法 ・は	つり工法) [5.1.3/		・リンググリルシャッター
	・モルタル塗費え工法	改修標仕4.2.2(7)	こよる)				5					
5 浮き部改修工法				[4 1 4] [4 4	. 10~15] [表4. 4.	1.2~.41	章 2 見本の製作等	・建具見本の製作	・特殊な建具の仮組	[5. 1. 5]	15 ガラス	種類・厚さ & 建具表による [5
子 2 即 以 1 多 工 本	75.45.75.015.87		ピンの本数 (本/m ²			+. 3. 4.	2 2240 2017 4	(世界元本の表)下	19 / 多足兵 00 成 和	[0.1.0]		
	改修工法の種類						建 📗 🚬 🗆 🗆 💮			(F. 0.015 th F. 0.41	16 ガラスの留め材	種別(区分は図示による) [!
	(モルダルを撤去しなし			一般部	指定部 注		ᄌ	外部に面する建具(フロ		[5. 2. 2] [表5. 2. 1]	10 33 3 70 0 11 00 11	1 /
l	・アメカーピンニング音	I	※ 25		;		改	種 別 耐風圧性		枠見込み(mpx) 施工箇所	47 11	※シーリング材 (SR-1, シリコーン系、9030G) ・ガスケット
.	#ポキシ樹脂注入工法	<u> ·</u>	<u> </u>		\vdash		修	• A種 S-4	- A-3 W-4	※図示	カラス用フィルム	品質な、JIS A5759による
	·/アンカーピンニング全	面 ※ 13	※ 20	※ 12	× 20 >		<u> </u>	• B種 S − 5		. 100		メガラス飛散防止フィルム 種類 (・第2種 ·) 張り面 (※内張 · 外引
	エポキシ樹脂注入工法	·		<u> </u>	<u> </u>	l [:]	事	· C種 S-6	A-4 W-5	/10 · 100 ·		/ 性能値 ※層間変位試験に適合するもの (B法)
V	/	面 ※ 13	※ 20	※ 12	※ 20	- 25ml		表面処理 ※BB-1種	· BB-2種(※プロンズ系 ・グラ	17 ・ステンカラー) [5. 2. 4] [表5. 2. 2]		Y
/	ポリマーセメントスラリ	-注入工法 ・	.	.	. ;	%50m∣		内部建具		[5.2.4][表5.2.2]	/	
/	・注入口付アンカーピン		※ 16		3			表面処理 ※AC-1又は	はBB-1種 ・AC-2攵はBB-2種(※	(プロンス゚系 ・プラック ・ステンカラー)	/	
/	エポキシ樹脂注入工法	- 1	.	1			1		/		/	
/ ·	・注入口付アンカーピン		* 16	* 9	※ 16 →		4 網戸	防虫網		[5. 2. 3]	/	
/	エポキシ樹脂注入工法			1 . ~	<i>'</i>	,.\=viii		I	ス (SUS316) 製 ・合成樹脂	i製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製	/	
/ -	・注入口付アンカーピン		* 16	* 9	* 16 3			形 式 ※可動式	/		/	
/			× 16	× 9	28 10 3	₩,90III		// X **********************************	- 四た八		/	
/ /	ポリマーセメントスラリ		1.	1 .	ı · _	— I						
/	※狭幅部におけるアン	ーピン本数は、幅中	央に5本/mとする	5			5 樹脂製建具		トサッシは製造所の仕様による)	[5. 3. 2] [表5. 3. 1]		
/	アンカーピン				[4	[4. 2. 2]		種別 耐風圧性	生 気密性 水密性	枠見込み(mm) 施工箇所		
/	材質 ※ステンレス	SUS304、呼び径 4	mmの丸棒で全ネ	ジ切り加工し	たもの ・			A種 S−4	W-4	・ 70 ※図示		
/	注入口付アンカーピン				[4	[4. 2. 2]	/	·B種 S−5	A-4 W-5	- 100		
/	材質 ※ステンレス	SUS304、呼び径外	径 6 mm					· C種 S-6	-	.	/	
	,,								<u> </u>	重 · T-B種 [5. 3. 2][表5. 3. 2]	l <i>V</i>	
								1		重 • H−B種 • H−C種 [5. 3. 2][表5. 3. 3]	1	
								関係にアセット及び国	nsxxソフクの廻用 性別 『N=A/	ェ 11□01単 - 11□01単[3.3.2][衣3.3.3]	/	
							Y				/	
											/	
								-			r l	

 電ケ浦会館受電設備改修工事
 四日市建築防災設計
 立修特記仕様書2
 水の
 Non
 A-02

	33 カーテン	・既存再使用する (養生方法) [2.3.1][5.1/6]	1	8 合成樹脂エマルショ	塗り工法の種別 ・A種 ※B種 ・C種 [7.10.2][表7.10.1]	10 モルタル及び	[8. 2. 6] [8. 2. 12] /
	00 % / 5	・新設する (操20.2.14)	1	ンペイント塗り(EP)	至7工从60往前 月往 从5往 5往 5往	グラウト材	グラウト材 ※無収縮グラウト材 (圧縮強度 45N/mm ² 以上)
			1		### 0 \$41 0 ## DI 4 # DI 5 DI 5	2 2 7 1 19	/
		10 - 1 m	1	1	新規の塗りの種別 ・A種 ・B種 [7-11.2][表7.11.1]		太平洋プレユーロックス(太平洋マテリアル) マスターフロー540グラウト(BASFポゾリス)
		・箱ひだ等・片びだ ・片引 ・引分	1	塗料塗り(EP-T)	塗替えの場合		ノンシュリンクライトグラウト(ABC商会) デンカ プレタスコン TYPE-1(電気化学工業)
		・箱ひだ等・片ひだ ・片引 ・引分	1		既存塗膜 下地調整 種 別		社団法人 公共建築協会の評価を受けているもの
		防炎加工 消防庁認定の ② とする	1		合成樹脂エマルション模様塗り ※RB種 ※A種		
		カーテンレール ・アルミニウム製 ※スチンレス製 ※C型又はD型	1		· RC種 ※C種		柱底等の均しモルタル ※無収縮モルタル ・モルタル
		カーテンきれ地のはぎれ ※半幅未満は使用しない ・一幅未満は使用しない	1				1
			1		平滑な塗料塗り ※RB種 ・A種 ・B種		太平洋プレユーロックス(太平洋マテリアル) マスターフロー870グラウト(BASF/ポゾリス)
		暗幕用カーテンの重なりは300mm以上とする。なお、重ねか所は下記による。	1		- RC種 ・C-1種 ・C-2種		ノンシュリンクライトグラウト(ABC商会) デンカ プレタスコン TYPE-1(電気化学工業)
		・両端 ・上部 ※召合わせ	1				社団法人 公共建築協会の評価を受けているもの
	③ 点検□	天井点検口 ※アルミニウム製 (※額縁タイプ ・目地タイプ)	1	10 ウレタン樹脂	塗り工法の種別 A種 ※B種 [7.12.2][表7.12.1]	11 無筋コンクリート	[8.11.1~3]
		床点検口 //・※アルミニウム製 ●ステンレス製 受け枠(・)	1	ワニス塗り(UC)	塗料の種別 ※1液形・2液形		振 新 設計基準強度 Fo スランプ 知典共の是十十計 海田祭正
		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	1		木部 工法は改修標仕表7.13.1による [7.13.2][表7.13.1]		種 類 欧町奉牛油及下の
	05 75 1 /2 1	15 55 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1	(0S)	1. 10. 2 (g. 10. 1)		
	35 流し台ユニット	種類 寸法 適用内容 規格·品質等	1	' /			※普通コンクリート ※18 ※15又は18 ※25
	/	流し台 ※1200 · 1500 · トラップ付 ※優良住宅部品	1	12 木材保護塗料塗り	工法 · A種 ※B種 [7.14.2][表7.14.1]		
	/	_ コンロ台 ※600 ・700 ・ バックガード付	1	(WP)			
	/		1			12 調合管理強度	構造体強度補正値 (S) [8.2.5][表8.2.4]
1/	ľ l		l /	1			(普通ポルトランドセメント)
	1 材料一般	・屋内の壁及び天井の塗装仕上げは、防火材料とする。 [7.1.3]	1	1 鉄筋の種類	[8. 2. 1] [表8. 2. 1]		打 設 期 間 補正値(N/mm²) 備 考
7	1 171 144 1112	/	l 8				
章		・次の箇所を除き防火材料とする。(章		種類の記号 径		3/ 1~7/ 9 9/ 9~11/23 3.0
*		建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 /	+		· S D 295 A ※ D 16以下		11/24~2/28 6.0
塗			耐		· S D 345		7/10~9/8 6.0 / 暑中コンクリート
	2 下地調整	RB種の場合の既存塗膜の除去範囲 (7.2.1]	震				
装		下地調整 [表7.2.1~7]	良改	2 溶接金網	網目の形状 (※ 150x150 ・ 100x100 ・ 50×50) [8.2.2]	13 コンクリートの	
改修		下地調整 下地調整の種別 備 考	修修	~ /ISIX W (N)	""		1
一一					鉄線の径 (mm) (※ 6.0 ・3.2	試験	20m3以下の場合の試験については、監督職員の指示による。
工事		RA種 ※RB種 ・RC種 新規はRA種(不透明塗り)	事	l	/		20~50m ³ の場合は任意の一車より試料を採取 U、各3個供試体を作成する。
#		鉄鋼面 ・RA種 ※RB種 ・RC種 新規はRA種	#	3 鉄筋の材料試験	※JIS規格品については径の異なるごとに 1 t 未満の場合は規格証明書 [8.2.3]		50m ³ 以上は 改修標仕8.8.3による。
1		亜鉛めっき面 ・RA種 ※RB種 ・RC種 新規鍼製建具はRC種	1		の提出を省略することができる。		/
		鋼製建具以外の新規はRA種	1	4 継手及び定着	鉄筋の継手方法 [8.3.4][表8.3.3]	14 型枠	打ち放し仕上げの種別 [8.1.4]
		モルタル、プラスター面 ・RA種 ※RB種 ・RC種	1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	 ・径 D 19mm以上の柱、梁の主筋はガス圧接、その他は重ね継手 		種別施工箇所
			1				
		/ Mixitalize	1		·重ね継手		· A 種
		せっこうボード、その他ボード面 ・RA種 ※RB種 ・RC種 が 新規せっこうボードで目地	1		継手位置 ※標仕各部配筋参考図による ・図示 [8.3.4]		
			1		定着長さ ※改標仕[表8.3.4]による ・図示 (8.3.4][表8.3.4]		· C 種
		既存モルタル下地面等のひび割れ部の補修 [表7.2.4~6]	1				外部に面するコンクリート打ち放し仕上げの打増し · 20 ※図示 [8.7.8]
		・行わない ・行う(補修範囲及び補修方法は図示)	1	5 帯筋組立の形	※各部配筋参考図図1.1による ・図示 [8.3.4]		
	3 錆止め塗料塗り	塗料種別 [7.3.2]	1		/		
	0 31 E 07 E 11 E 7	/	1	C PA O E1 00 TL 1 (14234)	WELL 6 th 37 th 4 th 7 th 1		
		鉄鋼面 ※A種 () ・B種 [表7.3.1]	1	6 壁の配筋及び補強	※標仕各部配筋参考図4節による ・図示 [8.3.7]		
		仕上げEP-Gの場合 ・A種(/) ※B種	1				
		亜鉛めっき鋼面 ※A種 ・B種 / [表7.3.2]	1	7 ガス圧接	圧接部の確認試験 [8.3.8]		
		仕上げEP-Gの場合 ・A種(/) ※C種	1		※超音波探傷試験 · 引張試験		
		請止め塗料塗り [表7.3.3~4]	1	8 コンクリートの	コンクリートの種類 ※普通 メンクリート ・軽量コンクリート [8.1.3]		
		鉄鋼面塗り替えの場合の種別 ・A/種 ・B種 ※C種	1	種類及び強度			
		/	1	性規及び強度			
		亜鉛めっき面の塗りの種別 ・A種 / B種 ※C種	1		普通コンクリートの類別 ※/類 · II類 [8.1.3] [表8.1.1]		
		亜鉛めっき面EP-G塗り替えの場合の種別 ・A種 ・B種 ※C種	1		仕上りの平たんさ種別 / a種 ・b種 ・c種 [8.1.4][表8.1.5]		
		新規鉄鋼面、亜鉛めっき面の塗りの種別 ※標仕18.3.3による	1		普通コンクリートの設計基準強度 [8.1.4]		
			1		設計基準強度 F o / 施 工 箇 所		
	4 合成樹脂調合	塗り工法 [7.4.1~5][表7.4.1~3]	1		* 21 (N/mm ²)		
	ペイント塗り(SOP)	下地の種類 塗料種類 塗り工法	1		. /		
	1771 = 7(001)	木部 ※1種・2種 新規(屋外 ※A種・B種 屋内 A種※B種)	1				
			1		47 F h		/
1		塗替え(※B種・)	1		軽量コンクリー の設計基準強度 [8.1.3~4][8.9.1~2][表8.9.1]		<i> </i>
1			1		設計基準強度 Fo 気乾単位容積質量 種 別 施工箇所		[/
1		亜鉛めっき面 / ※1種 ・2種 ※改修標仕7.4.5よる ・	1		(N/ym ²) (t/m ³)		y I
1			1		※ 21 (N/mm) ※1.9程度 ※1種	/	1
1	5 アクリル樹脂系非水	塗替えの場合の▼地調整 ・RA種 ※RB種 ・RC種 [7.2.5~6]	1		. /	/	
1	分散形塗料(NAD)	塗り工法の種別 ・A種 ※B種 [7.7.2][表7.7.1]	1			/	
1			1	0 7 7 7 11 - 1 7 11 11	/ ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 [8.2.5] [表8.2.3]	/	
	C 파살····································	今井 - の 日 人 の T 14 研 数	1	リョングリートの何料		/	
	0 剛修性塗料塗り(DP)	塗替えの場合の下地調整 ・RA種 ※RB種 ・RC種 [7.2.2][表7.2.1] ~ [7.2.7][表7.2.7]	1	/	・高炉セメントB種 適用箇所()		
		・鉄鋼面 工法は、表7.8.1 種別は新規はA種、塗替はB種) [7.8.2][表7.8.1]	1		・フライアッシュセメントB種 適用箇所()		
		・亜鉛めっき面 工法は、表7.8.2 種別は新規はA種、塗替はB種) [7.8.3][表7.8.2]	1		・アルカリシリカ反応による区分 ※A		
		≠塗種別	1		・フェロニッケルスラグ細骨材は使用しない		
		/ · JISK5659 (1級) ふっ素系樹脂塗料	1			/	
		- JISK5659 (2級) シリコン系樹脂塗料	1			/	
1	<i>/</i> /		1	/		/	
1	/	 JISK5659(3級) ポリウレタン系樹脂塗料 	1	I /		/	
1	/	・コンクリート面、押出成型セメント板面 [7.8.4][表7.8.3]	1	/		1/	
1	/	工法は、表7.8.3 種別は(・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2 ・C-1種 ・C-2種)	1	1/		<i>V</i>	
1	/	上塗種別	1	I /		/	
1	/	 JISK5658 主要原料 ふっ素樹脂(1級) 	1 .	1		/	
1	/	 JISK5658 主要原料 シリコーン樹脂(2級) 	1/				
1	/	 JISK5658 主要原料 ポリウレタン樹脂(3級) 	1/				
1	,/		۲	1	V	1	
1	7 つか有合成樹脂	[7.9.2~5][表7.9.1~4]	I				
1	ヺ マルション ┃	下地の種類 塗り工法	I				
1	/ペイント塗り(EP-G)	新規(・A種 ・B種) 塗替え(※B種 ・)	1				
1	y I	木部 新規(※A種 ・) 塗替え(※B種 ・)	1				
1 /	1 I	鉄鋼面 新規(・A種 ・B種) 塗替え(※B種・)	1				
\perp			1				
1/		亜鉛めっき鋼面 新規(・A種 ・B種) 塗替え(※B種・)	1				
<u> </u>		塗替えの場合のシーラー ※改修標仕 7.9.2による ・行わない					

個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報(特定個人情報(個人番号をその内容に含む個人情報をいう) を含む。) を取り扱う場合においては、下記条文を遵守すること。 (基本事項) 第1 この契約による工事の施工者(以下「乙」という。)は、この契約による工事を施工するに当たり、個人情報(特定 個人情報(個人番号をその内容に含む個人情報をいう。)を含む。以下同じ。)を取り扱う際には、個人情報の保護 の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 (施工者の義務) 第2 乙及びこの契約による工事に従事している者又は従事していた者(以下「乙の従事者」という。)は、当該工事を施 エするに当たり、個人情報を取り扱うときは、四日市市個人情報保護条例(平成11年四日市市条例第25号。以下「条 例」という。) 第11条に規定する義務を負う。 2 乙は、この契約による工事において個人情報が適正に取り扱われるよう乙の従事者を指揮監督しなければならない。 第3 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するに当たって知り得た個人情報を当該工事を施工するために必要 な範囲を超えて使用し、又は他人に知らせてはならない。 2 乙は、乙の従事者が在職中及び退職後においても、前項の規定を遵守するように必要な措置を講じなければならない 3 前2項の規定は、この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。 (適正な管理) 第4 乙は、この契約による工事に係る個人情報の漏えい、滅失又は改ざんの防止その他の個人情報の適正な管理のために 必要な措置を講じなければならない。 2 乙は、個人情報の適正な管理のため、管理責任者を置くものとする。 3 管理責任者は、個人情報を取り扱う工事の従事者を必要な者に限定し、これらの従事者に対して、個人情報の管理方 法等について適正な指導管理を行わなければならない。 4 四日市市(以下「甲」という。)は、必要があると認めたときは、個人情報の管理状況等に関し、乙に対して報告を 求め、又は乙の作業場所を実地に調査することができるものとする。この場合において、甲は乙に必要な改善を指示 することができるものとし、乙は、その指示に従わなければならない。 第5 7.及び7.の従事者は、この契約による工事を施工するために、個人情報を収集するときは、当該工事を施工するため に必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により収集しなければならない。 (再提供の禁止) 第6 乙は、あらかじめ甲の承諾があった場合を除き、この契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供してはならない。 2 乙は、前項の承諾により再提供する場合は、再提供先における個人情報の適正な取り扱いのために必要な措置を講じ なければならない。 3 前項の場合において、乙は、再提供先と本注意事項に準じた個人情報の取り扱いに関する契約を交わすものとする。 (複写、複製の禁止) 第7 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、この契約による工事を施工するに当たって 甲から提供された個人情報が記録された資料等(以下「資料等」という)を複写し、又は複製してはならない。 (持ち出しの禁止) 第8 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、資料等(複写又は複製したものを含む。第9 において同じ。)を契約書に指定された作業場所から持ち出してはならない。 2 甲及び乙は、乙が前項の指示又は承諾により資料等を持ち出す場合、その内容、期間、持ち出し先、輸送方法等を書 面により確認するものとする。 3 前項の場合において、乙は、資料等に施錠又は暗号化等を施して関係者以外の者がアクセスできないようにするとと もに、資料等を善良なる管理者の注意をもって保管又は管理し、漏えい、滅失及びき損の防止その他適切な管理を行 (資料等の返還) 第9 乙は、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等を、当該工事の終 了後速やかに甲に返還、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により廃棄、又は消去する場合を除く。 2 前項の廃棄又は消去は、次の各号に定めるほか、他に漏えいしないよう適切な方法により行うものとする。 (1) 紙媒体 シュレッダーによる裁断 (2) 雷子媒体 データ完全消去ツールによる無意味なデータの上書き、もしくは媒体の破砕 3 乙は、第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供したときは、当該工事の 終了後速やかに当該第三者から資料等を回収のうえ甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示 により、乙又は第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合を除く。 4 前項ただし書の規定により、第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合においては、乙は、当該資料等が廃棄、又 は消去されたことを直接確認しなければならない。 (研修・教育の実施) 第10 乙は、乙の従事者に対し、個人情報の重要性についての認識を深めるとともに、この契約による工事における個人情 報の適正な取り扱いに資するための研修・教育を行うものとする。 第11 乙は、条例第44条、第45条、第47条及び第48条に規定する罰則適用について、乙の従事者に周知するものとする。 第12 乙は、この契約による工事の施工に当たって、個人情報の取り扱いに関して苦情があったときは、適切かつ迅速な処 理に努めるものとする。 第13 乙は、この個人情報取扱注意事項に違反する事故が生じ、又は生じるおそれがあることを知ったときは、凍やかに甲 に報告し、甲の指示に従うものとする。 (契約解除及び損害賠償) 第14 甲は、乙又は乙の従事者がこの個人情報取扱注意事項に違反していると認めたときは、契約の解除及び損害賠償の請 求をすることができる。

霞ヶ浦会館受電設備改修工事

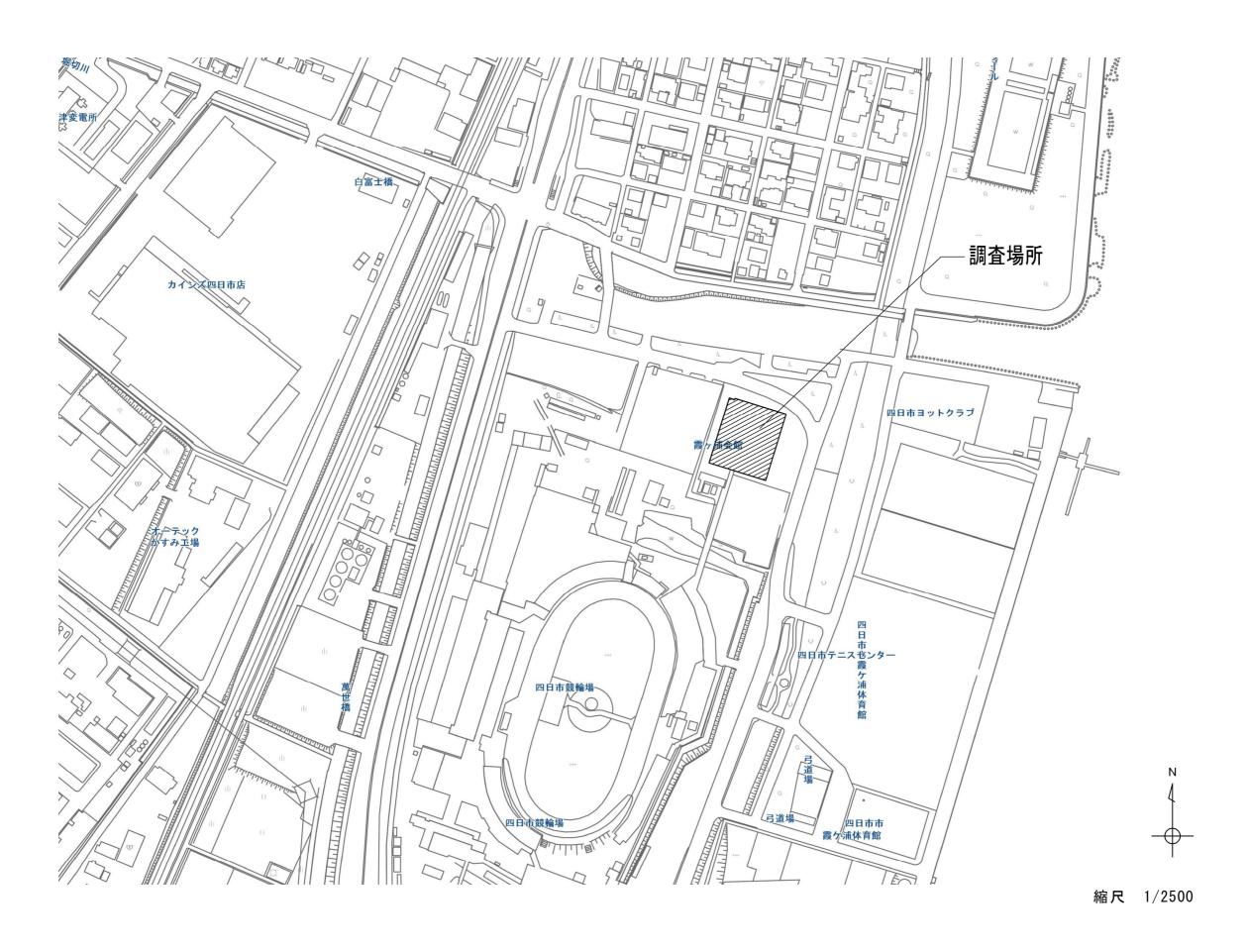
正:備考

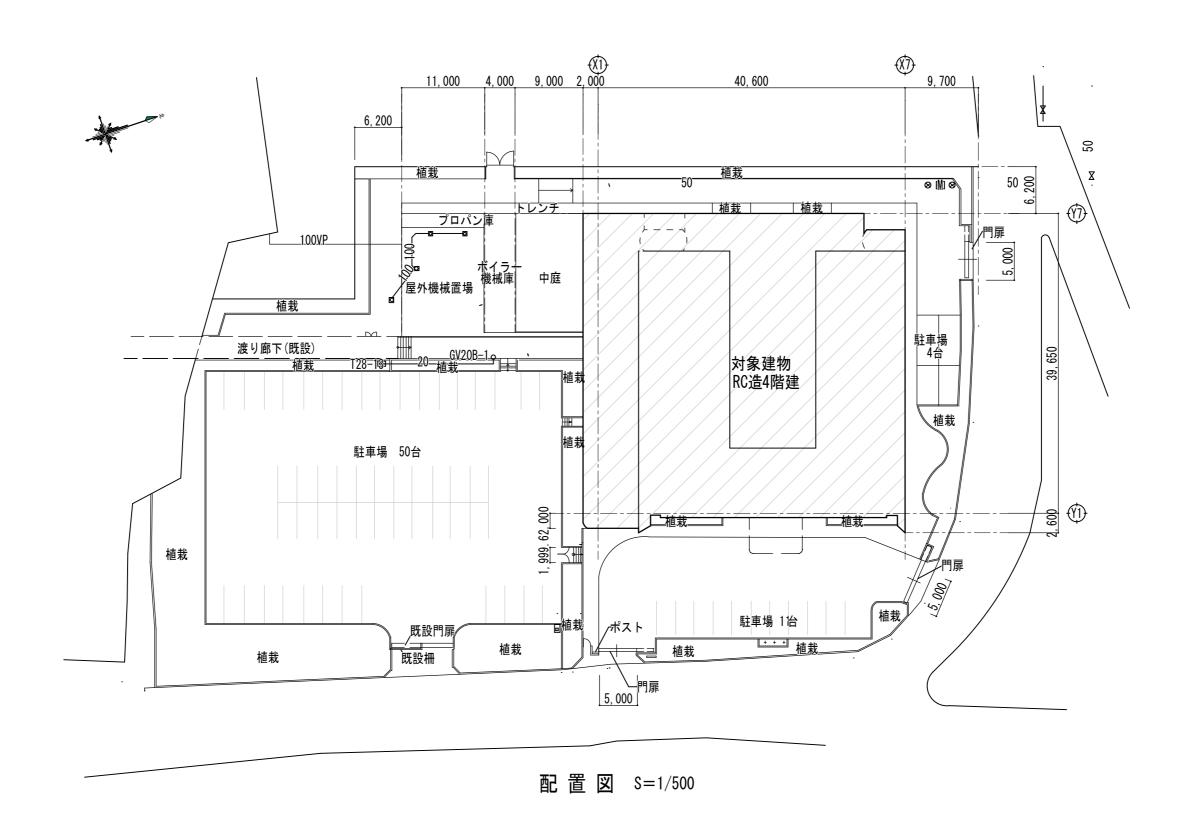
四日市建築防災設計三重県四日市市栄町4-1 四日市建設業会館2F
e-mail: info@yonkenbou.or.jp
三重県知事登録 1-2058号 - 級建築士 134289号 黒田 貞信

改修特記仕様書4 scale
Non

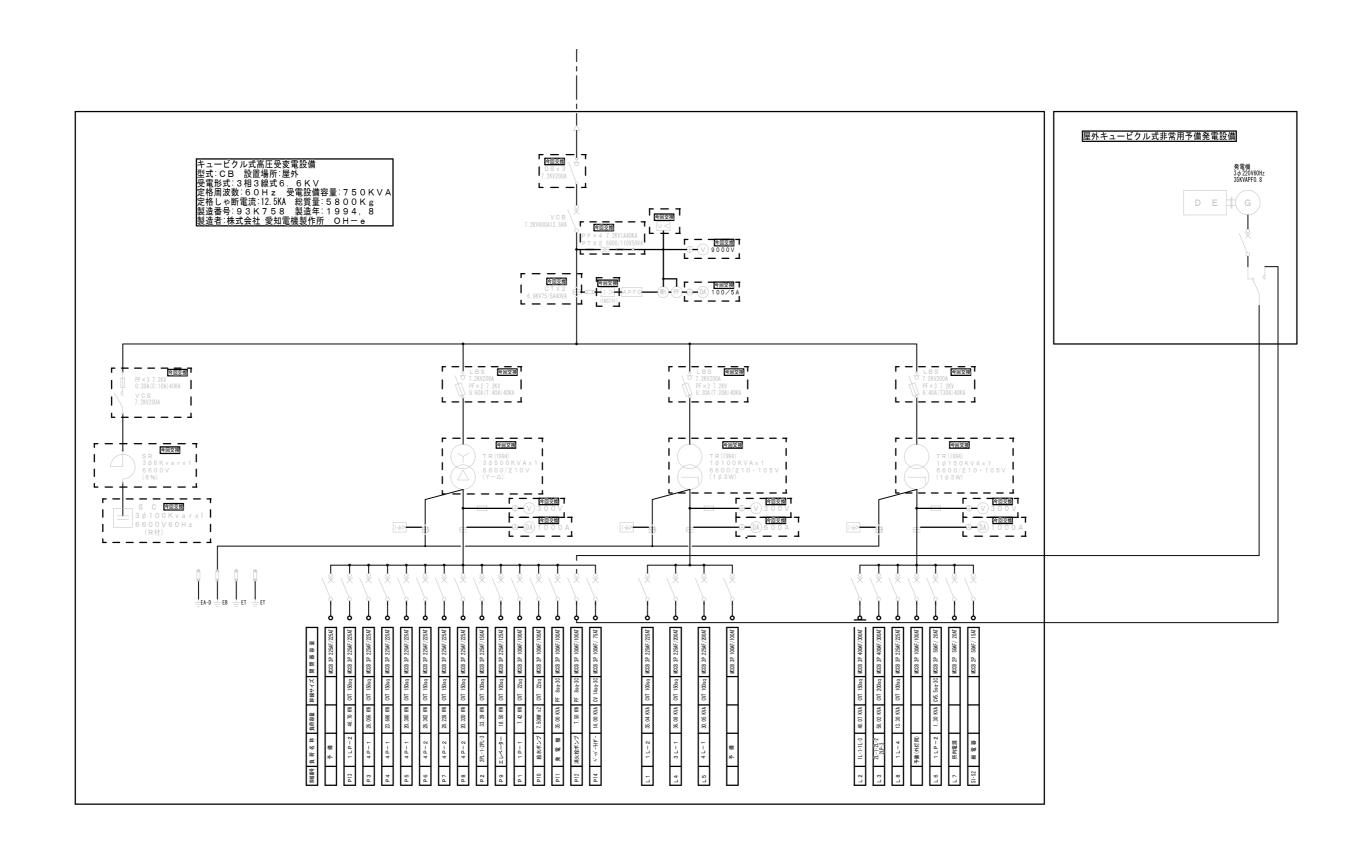
approved check drawn date
y. miyata y. miyata 2,025 年 03月 20日

A-04





電子 () では ()



 霞ヶ浦会館受電設備改修工事
 四日市建築防災設計
 送電系統図
 scale Non
 Non

 三重県四日市市栄町4-1 四日市建設業会館2F
 e-mail: info@yonkenbou.or. jp Semily i